Vπ-30000型

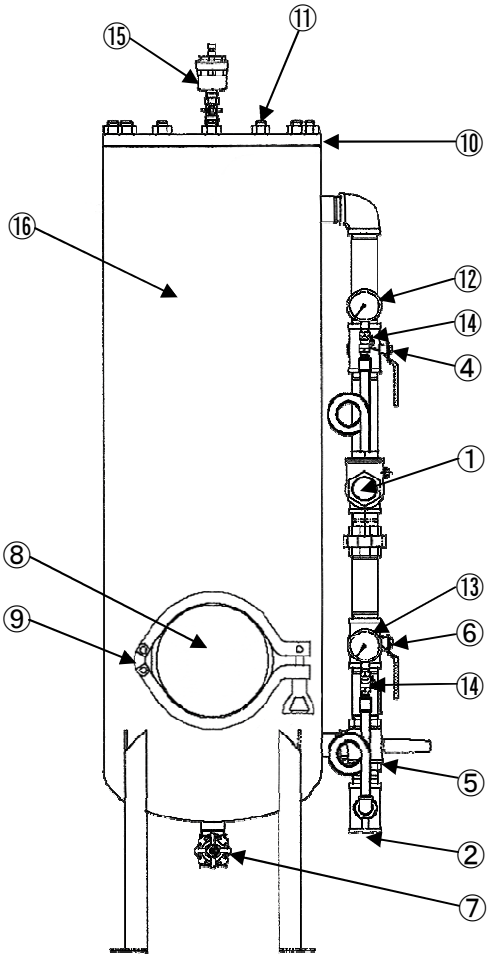
取扱説明書

ろ過流量(最大)	160ℓ/min
ろ過材使用限界	1 日 3,600ℓ使用で約 2 年(約 2,630 ﾄﾝ)
使用可能水圧	5.0 kg f/㎠(0.49Mpa)

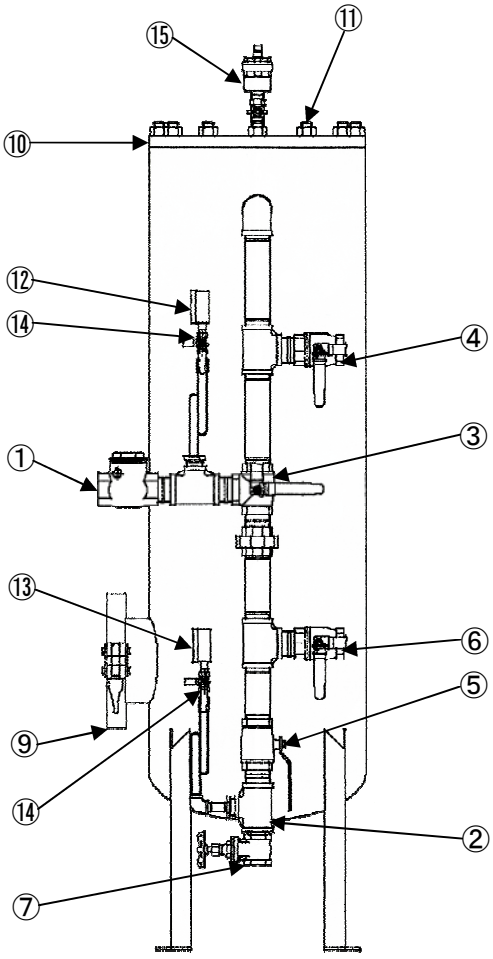
人間と自然に優しい水を提供するのが私たちの仕事です。

京洋興業株式会社

【1】各部名称



正　面

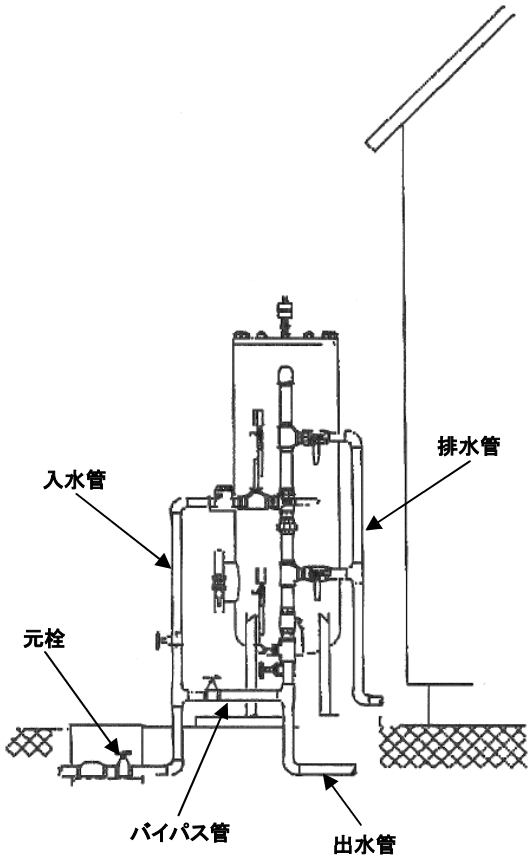


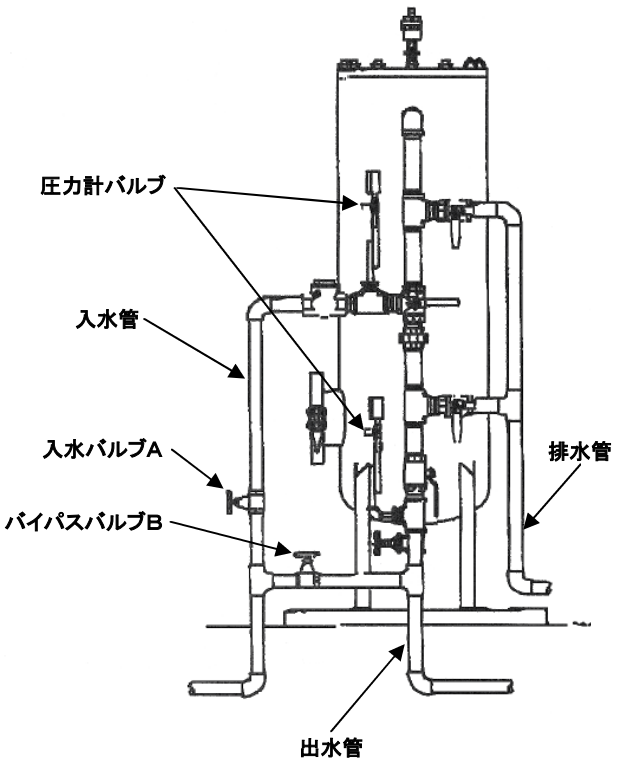
横

番号	名　　称	仕　　様　　等
①	入水口	40A
②	ろ過水出口	40A
③	入水三方バルブ	振り分け用バルブ
④	逆洗浄排水バルブ	40A
⑤	出水三方バルブ	振り分け用バルブ
⑥	洗浄排水バルブ	40A
⑦	ドレーン	32A
⑧	側面蓋	ろ材取り出し口
⑨	P型クランプ	
⑩	上蓋	
⑪	ナット	12本
⑫	入水口圧力計	1．0MPa
⑬	出水口圧力計	1．0MPa
⑭	水圧計バルブ	8A
⑮	エア抜きバルブ	
⑯	タンク	本体

【2】装置の設置方法

1. 装置を安定させるためにアンカーボルトで固定します。。
2. 水道の元栓を閉めます。
3. 水道管の接続部分を掘り起こします。
4. 装置の配管は入水管が元栓側、出水管が家側になるように配管します。この時、入水管と出水管を結ぶバイパス管を接続し、バイパス管にバルブを設置し（＊バイパスバルブB）、また入水管にもバルブを設置します（＊入水バルブA）。
5. 水道管2カ所を切断します。この時、入水管と出水管の位置を合わせます。
6. 切断した水道管のうち、元栓側の管は入水管と接続し、家側の管は出水管に接続します。
7. 接続後は、洗浄操作後、通水します（【3】バルブの操作方法を参照）。
8. 排水管は設置場所の周囲の排水口へ向けて配管します。（排水は設置時や逆洗浄及び、ろ材の交換後の洗浄時の排水なので周囲に排水できなければ、一時的にホースを取付けて側溝等に排水してください）
9. 通水後に漏水の確認をしてから、水道管を埋め戻します。
10. 凍結を防ぐため、地上に出ている配管に保温材を巻きます。
11. 冬場は凍結によって圧力計が破損し水漏れする恐れがある為、圧力計の下にあるバルブ（圧力計バルブ）を閉じてください。





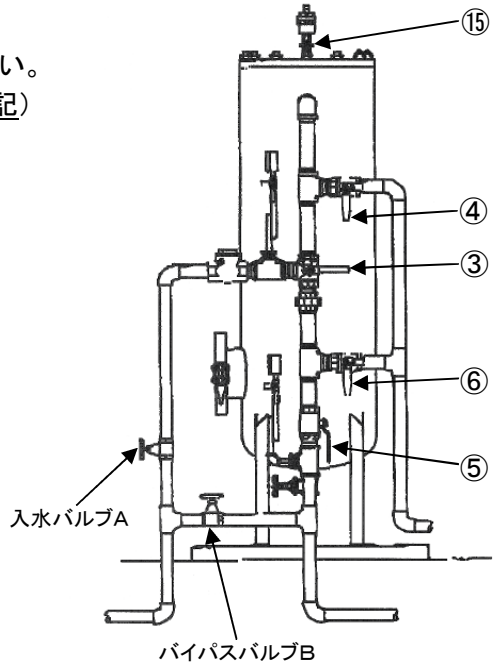
【3】バルブの操作方法

1．洗浄バルブ操作

元栓を開ける前に、下記のバルブ操作をしてください。

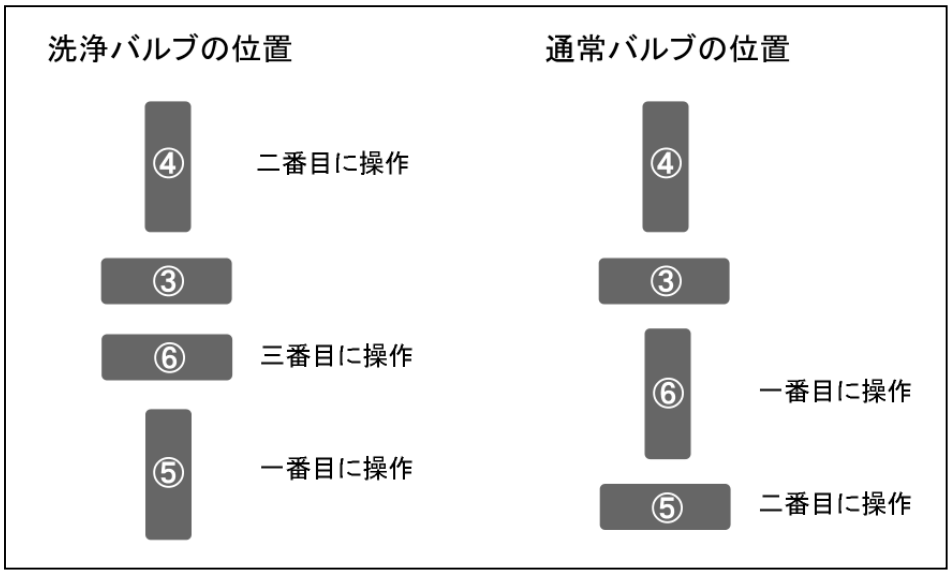
（バルブの開閉及び方向は、バルブのレバーに明記）

a）エア抜バルブ⑮を開けます。
b）出水三方バルブ⑤を縦にします。
c）逆洗浄排水バルブ④を縦にします。
d）入水三方バルブ③を横にします。
e）バイパスバルブBを閉めます。
f）洗浄排水バルブ⑥を横にします。
g）入水バルブAを開けます。



注）洗浄の際、給水すると一旦上部エア抜きバルブ⑮からエアが抜けます（この時洗浄バルブ⑥は縦です）。エアの抜ける音が止まってから1～2分待ちます。その後、洗浄バルブ⑥を横にして洗浄を行います（これは胴内最上部まで水を溜めるためで、これを行わないと内部の汚れが完全に取れません）。

その後、洗浄排水バルブ⑥の縦横を約3分間隔で排水の濁りが無くなるまで行います（洗浄排水バルブ⑥を縦にした状態で水漏れを確認してください）。十分洗浄を行った後、エア抜き⑮を閉め、出水三方バルブ⑤を横にします。この時配管に空気が入っている場合があるので、家内の蛇口を開け、配管内の空気を抜き（10分程度通水）完了です。

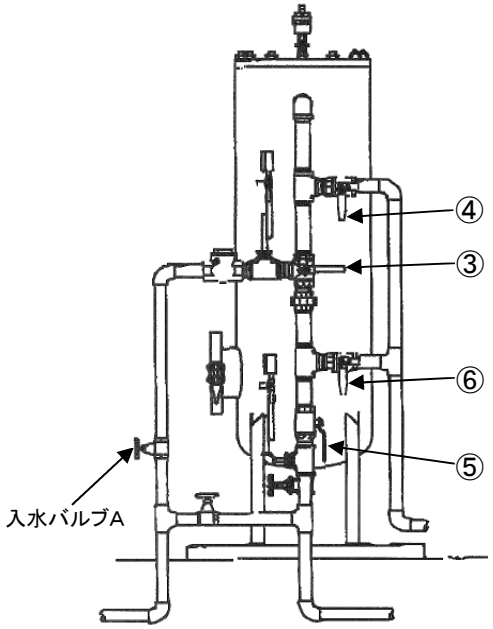


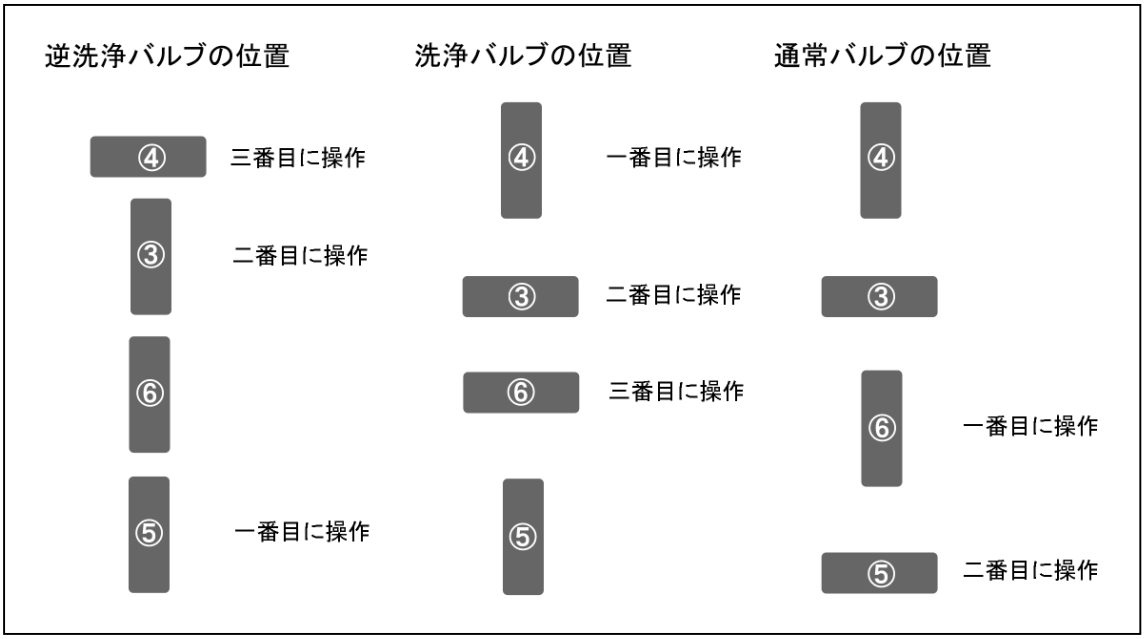
2. 逆洗浄バルブ操作

＊3～4ヶ月に一度、逆洗浄により出水される水がきれいになるまで行います。

a）入水バルブAを閉めます。
b）出水三方バルブ⑤を縦にします。
c）入水三方バルブ③を縦にします。
d）逆洗浄排水バルブ④を横にします。

＊上記のバルブ操作後、入水バルブAを開け、ろ材を十分に洗浄します。
逆洗浄の排水を十分に行なった後、洗浄バルブ操作を行います。（【3】－1を参照）
＊この洗浄操作の際、エア抜きを行う必要はありません。





●トラブルのあった時、長期使用しない時、水道水を使用したままろ材交換を行う時

＊バイパスバルブ操作

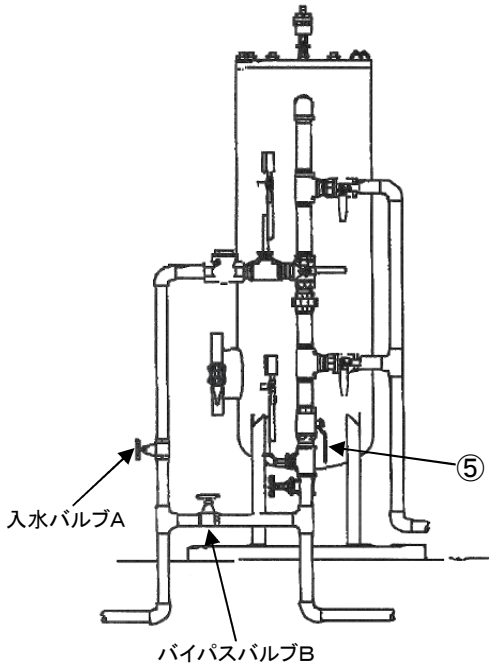
水道工事などにより赤水が流れる場合、直接タンク内に通水するとフィルター等の目詰まりやろ過能力の低下になるので、この操作を行います。

a）入水バルブAを閉めます。
b）出水三方バルブ⑤を縦にします。

上記のバルブ操作後、バイパスバルブBを開けます。家内等の蛇口を開けて、赤水が出なくなるまで通水します。

再び使用する際は、

c）バイパスバルブBを閉めます。
d）出水三方バルブ⑤を横にします。
e）入水バルブAを開けます。



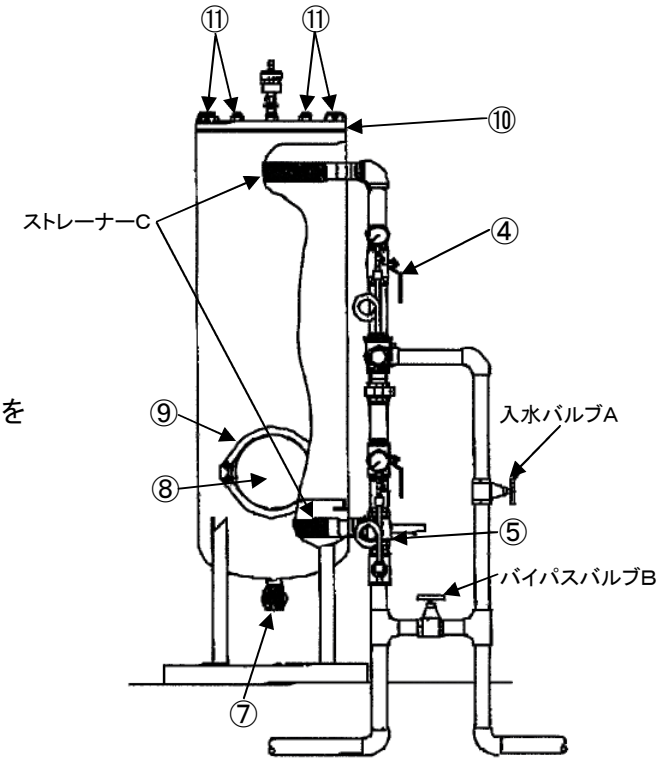
【ご使用中の注意】

原水にカルシウム等のミネラル分が多い場合、タンク内のろ材が固まり水圧が低下する恐れがありますので、必ず定期的に洗浄・逆洗浄のバルブ操作を行ってください。
なお、この操作を怠ると本体破損の原因となります。

4. ろ材の交換方法

ろ材交換に必要なもの

・モンキースパナ（36mm以上のもの）2本
・70cm程の棒1本
・シールテープ1個
・小さなスコップ1本
・マイナスドライバー1本
・布テープ1個
・ウェス（雑巾）1 枚

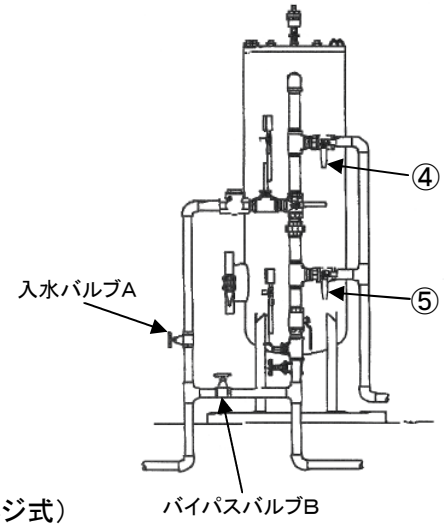


1. バルブ操作
バイパスバルブBを開けてから下記の操作を行って下さい。

a)入水バルブAを閉めます。
b)出水三方バルブ⑤を縦にします。
c)逆洗浄排水バルブ④を横にします。
d)ドレーン⑦を開けてタンク内の残留水を排水します。

2. 側面蓋⑧の取り外し
P型クランプ⑨を取り外し、側面蓋⑧を取ってください。
（側面蓋⑧は2kg位の重さがありますので取扱注意）

＊取り外す際にろ材が出るので、下側にビニール袋等で受けながら取り外してください。



3. ろ材取り出し

a)側面蓋⑧取り外し後タンク内のろ材を全て掻き出してください。
b)ナット⑪を全部取り外し上蓋⑩を取り外してください。
（ナット⑪を取り外しても上蓋⑩が外れない場合は、ドライバーを上蓋⑩とゴムパッキンの間に差し込み持ち上げて上蓋⑩を取り外してください。）
c)タンク内部のストレーナーCを取り外してください。（ネジ式）
d)タンク内の側面に付いているろ材は、水で流してください。
（ドレーンの径が小さいのでタンク内部に付いているろ材以外のものは、流さないようにしてください。）
e)ストレーナー洗浄後、下部ストレーナーのみ取り付けます。

4．ろ材詰め

a)上部ストレーナーCのねじ込み穴を布テープ等でふさぎ、側面蓋⑧をとりつけます（ 注）参照 ）。

b)次の点に気をつけ、右図のようにろ材袋の番号順に入れます。

・各ろ材とも平らにしてから、次のろ材を入れます。
・活性炭を入れた後、棒でつつき、活性炭層を少し沈み込ませてから次のろ材を入れます。
・⑪のフィルターを入れた後、ドレーン穴の布テープを剥がし、ストレーナーCを装着します。
・⑮のπ化自然石（小）は全ていれなくても可です。
・⑭π化自然石（大）の隙間を埋める程度に入れます。
（この時ードライバーを使い胴の端に埋め込むようにすると良いでしょう）

Vπ-30000 型ろ材袋番号表	
⑮	π化自然石（小）
⑭	π化自然石（大）
⑬	Vπミネリッチ
⑫	Vπニューπ化セラミック Vπニューπ化抗菌セラミック
⑪	フィルター
⑩	Vπパワーセラミック PH 安定セラミック ライフセラミック
⑨	Vπナチュカル
⑧	Vπニューセラミック
⑦	VπSAC（活性炭）
⑥	フィルター
⑤	VπS ナチュカル
④	Vπニューπ化セラミック
③	π化自然石（小）
②	π化自然石（大）
①	フィルター

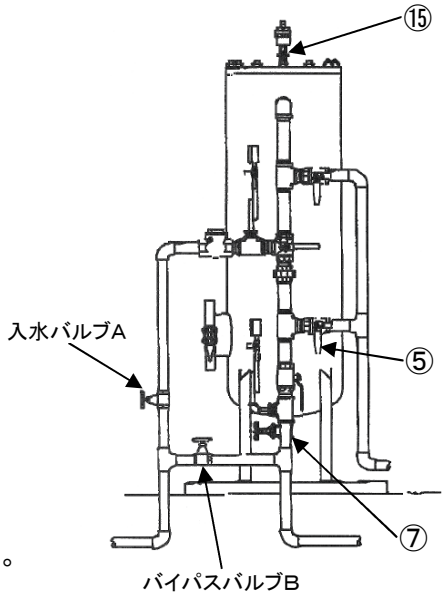
c)蓋を締める

・パッキン（黒）を洗い、タンクについたろ材やゴミをきれいに取り除いた上でパッキンを装着します。
注）ろ材やゴミが残っていた場合、パッキンの隙間から水漏れの原因となります。
・蓋を乗せ、ネジを対角線上に締めます。
・ネジを締め終わったら、洗浄運転を行います。

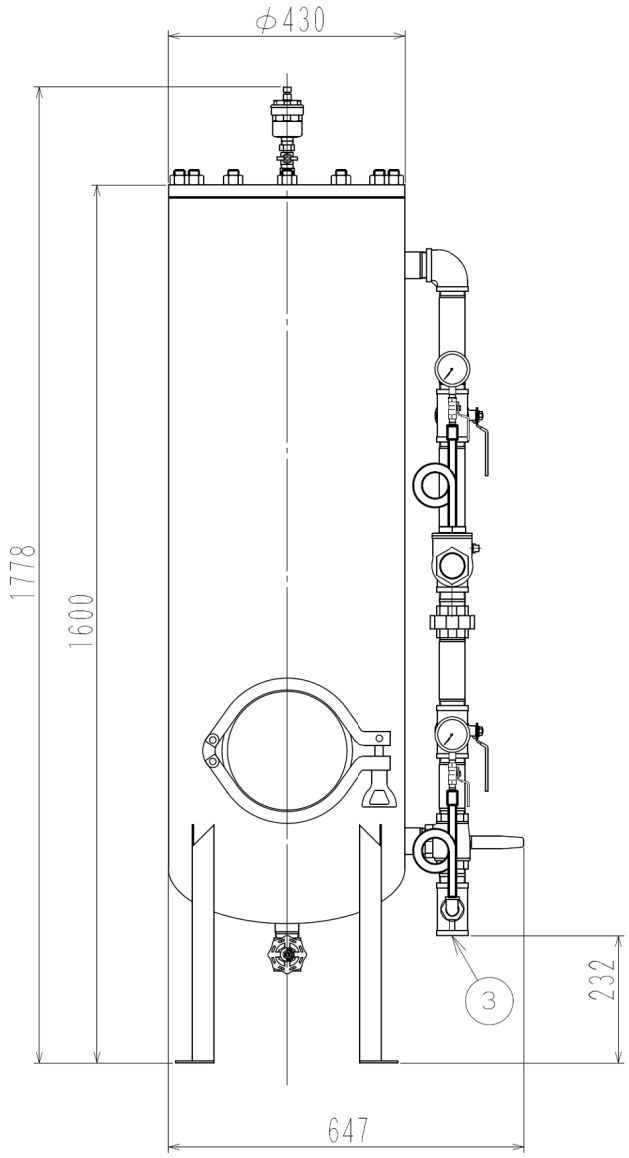
d)洗浄運転

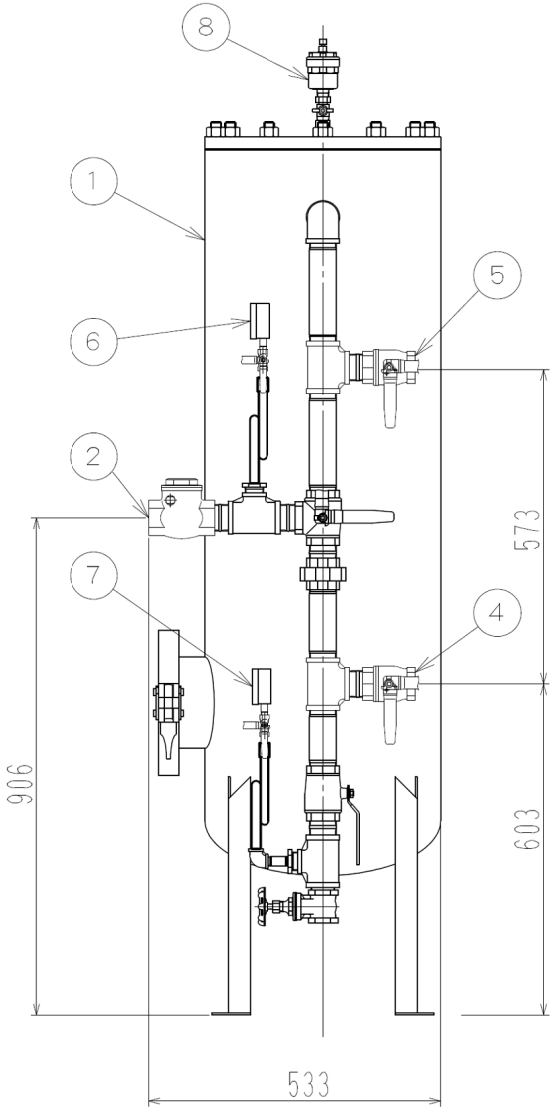
次の順に行います。
・エア抜き⑮を開けます。
・入水バルブAを開けます。
・バイパスバルブBを閉めます。
・ドレーン⑦を閉めます。

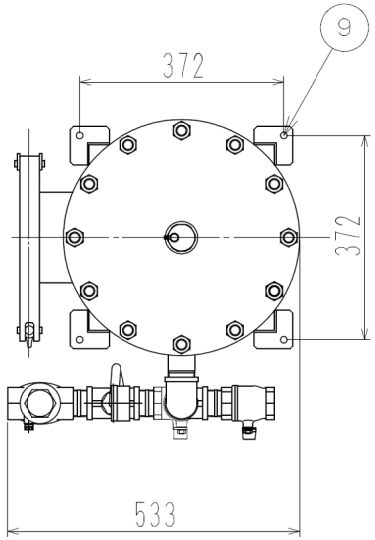
注）洗浄の際、給水すると一旦上部エア抜きバルブ⑮からエアが抜けます。（この時洗浄バルブ⑥は縦の状態です）。
エアの抜ける音が止まってから1～2分待ちます。
その後、洗浄バルブ⑥を横にして、洗浄を行います。
（これは胴内最上部まで水を溜めるためで、これを行わないと、内部の汚れが完全に取れません。）



その後、洗浄排水バルブ⑥の縦横を約3分間隔で排水の濁りが無くなるまで行います（洗浄排水バルブ⑥を縦にした状態で水漏れを確認してください）。十分洗浄を行った後エア抜き⑮を閉め、出水三方バルブ⑤を横にします。この時配管に空気が入っている場合があるので、家内の蛇口を開け、配管内の空気を抜き（10分程度通水）完了です。







5	逆洗浄排水口	呼び径　40A					
4	洗浄排水口	呼び径　40A		9	アンカーボルト用孔	φ12×4箇	
3	出水口	呼び径　40A		8	エアー抜き	耐圧 1.0 MPa	
2	入水口	呼び径　40A		7	出水口圧力計	1.0 MPa	
1	本体	耐圧 0.5 MPa		6	入水口圧力計	1.0 MPa	
部番	名称	寸法・仕様	備考	部番	名称	寸法・仕様	備考

符号	年月日	改訂理由	担当
1			

型式 PATTEN-TYPE

単位 UNITS mm　尺度 SCALE 1:10

承認 APPROVED BY　審査 EXAMINE BY

検図 CHECKED BY　製図 DRAWN BY 2008.10.28 関根

名称 TITLE

Vπ-30000

京洋興業株式会社

図面番号 DRAWING NO. Vπ-30-00　A3